

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.24

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
http://www.ict.ne.jp/~hakua/
E-mail：hakua@ict.ne.jp



濱田(旧姓 中川) 朋恵さん (高37回)

大谷大学卒業。
1993年12月、濱田典保氏(赤福11代、現顧問)と結婚。
2023年2月株式会社伊勢福代表取締役社長
2024年10月株式会社赤福代表取締役社長

運命の出会い

枯山水の庭越しに五十鈴川の清流が臨める赤福本店隣の五十鈴茶屋の二階、松阪木綿に身を包み現れた長身の濱田朋恵さんは初対面の我々を温かく迎え入れてくれ、幼い頃から現在に至るまでの波乱万丈の人生と思いを熱く語ってくれた。赤福318年の歴史を大切にしながら、時代に合わせた新しいチャレンジに積極的に取り組んでいる。

京都から伊賀に戻り、青年会議所主催の青年の船「とうかい号」に興味を持ち、乗船した。三重、愛知、岐阜、静岡から千人近く参加していた中に、一年後に伴侶となる濱田典保氏(赤福11代)も乗船していた。10日間の研修を終え、下船したその日に連絡があり、後日、実家の横山まで車で迎えに来てくれた。

伊勢は遷宮のたびに生まれ変わる

出合いから約一年。1993年の第61回式年遷宮の年の12月に結婚式を挙げ、翌年の元旦の朝5時には、赤福の本店のカウンターに立った。赤福では、早朝4時に起きて、本店の竈に火をいれることが女将の務め。お茶の湯を用意してお客様をお迎えするところは代々受け継がれている。若女将の頃

苦境を乗り越えられた伊賀びと魂

順調に事業が拡大し、次の遷宮に向けての行事が始まりました。2007年10月に赤福餅の賞味期限偽装が世間を騒がすことになり、4ヶ月ほどの営業停止処分を受けることになった。経営者の妻として、3人の子供の母として、そして赤福の若女将として必死だった。営業再開の日には前日から

嫁いだ頃のおほらい町は今では想像もつかないほど人影もまばらで閑散としていた。義父でカリスマ経営者と呼ばれていた濱田益嗣氏は1993年の遷宮の前年に、140億円という巨額の自己資金を投じ、おほらい町の中ほどに江戸時代の町並みを再現した「おかげ横丁」を完成させ、訪れる観光客の数は飛躍的に増加していった。



年の瀬の行事で餅つきをする濱田さん(おかげ横丁で)

伊賀びとの魂で日本の文化を伊勢から発信

株式会社赤福 代表取締役社長 濱田 朋恵さん

伊勢福の社長と赤福の社長に

おかげ横丁は株式会社「伊勢福」が企画運営している。その前社長が退任することになり、2023年2月、おかげ横丁を一番よく理解しているとい

うことで朋恵さんが新社長に就任した。また、東京日本橋にある「三重テラス」の新たな運営事業者にも「伊勢福」が三重県から選ばれた。そして翌年、赤福の社長であった義母も高齢となり、副社長から後継の社長に就任した。

上高ではハンドボールに熱中

上野高校に入学してサッカー部のマネージャーになったが一日でやめ、ハンドボール部に入部。それは、体を動かすことが好きだったこととサッカー部と同じ第2グラウンドで活動していた

ハンドボール部の部員が不足している部の存続の危機と聞いたため。部活では長身を活かしてキーパーをつとめた。上野高校の現状や女子生徒のセーラー服がなくなつたことを伝えると、他校との差別化を図る一つのブランドデザインになるのに卒業生から経営者の視点で残念があった。



三重新酒祭で鏡割りをする濱田さん(おかげ横丁で)

赤心慶福と不易流行

赤福の経営方針には「赤心慶福の精神を礎に不易を守り、流行を取り入れ永続的な発展を目指します」とある。赤心慶福とは赤福の語源となった言葉で「まごころ(赤心)をもって、他の人の幸せを自分のことのように慶ぶ(慶福)」であり、不易流行は言うまでもなく松尾芭蕉の俳諧の理念。伊賀びとの魂はここにも生きている。

故郷伊賀の、日本の原風景ともいえる田園風景が大好き。稲作文化が日本の原点であり、米造りや農業を大切に、日本の食文化の魅力が伊勢の地から様々な機会を通じて発信していきたい。2033年の式年遷宮に向けてどんどん注目を浴びる伊勢神宮。そしてそのおひざ元のおほらい町でバイタリティ溢れる伊賀びとの活躍を注目していきたい。

(取材) 高24回 吉輪康一
高32回 峠 美晴
高41回 岡森史枝
高41回 菊山美早(高)

幅広い世代にも魅力ある 同窓会活動を目指して



同窓会会長
土肥(旧姓 木澤)稔治

昨年11月、令和6年度上野高等学校同窓会総会において会長を仰せつかりました第24回卒業生の土肥稔治と申します。力不足ではありますが卒業生の皆様のために精一杯やらせていただく所存です。左橋佳三前会長には17年間の長きに渡り会長を務められ、同窓会のために多大なるご尽力を頂いたことに對し改めて感謝を申し上げます。

さて、同窓会長の初めての仕事として、第76回卒業式前日の令和7年2月28日に開催された同窓会入会式に出席しました。平成24年度から3年間、本

共に進もう 新しい時代へ



学校長
杉阪 英則

同窓会会員の皆様には、平素から本校の教育活動に温かい御支援・御協力を頂いておりますこと、厚く御礼申し上げます。

また、上野高等学校の卒業生の皆様、各界において活躍なさっていることは在校生にとってこの上ない誇りであり、本校を卒業し未来へ羽ばたこうとしている者にとって、今後の大きな自信につながるものと喜んでおります。さて、本年度から大きく学校改革をスタートさせました。改革の大きな柱は6点です。①普通科を学際探究科へ

②理科を2クラスへ③学際探究科・理科科ともに前期選抜実施④海外修学旅行の実施⑤45分7限授業⑥スーツ型制服への変更です。③については、特に学際探究科は前期選抜で4・13倍と

学校の校長を務めましたので卒業式の雰囲気は分かっていたと思いますが、改めて同窓会の会長として参加した時には雰囲気も違いますし、私が卒業生の皆さんを見る目が「ようやくここまで成長したか」という親の目から「困ったときは言っていることながら驚きま化していることに我ながら驚きました。そして、令和7年現在の全会員数3万7千人余りの卒業生の皆さんの代表として同窓会を運営させていただくことの責任の重さを感じた次第です。

同窓会は、本部役員と理事の皆さんと共に運営しています。今年度から東京支部長の實守様、名古屋支部長の澤田様にも副会長として加入していただき、広く意見をお聞きすることにしました。各支部においてはこれまで独自の活動を活発にされてきており、親睦友誼に務めておられます。しかし、京阪神支部については、長年にわたり支部会長としてご尽力されました第7回卒業の百本惺様が一昨年に逝去されました。それに伴い、京阪神支部の会

挨拶

県内でも3位の高倍率となり、中学生や地域からの理解が得られたと喜んでおります。また⑥については、本人・保護者や地域からも高評価をいただいております。6月には、多くの生徒が夏服に変わっており、ネクタイ・リボンや、ベスト・セーターなど、その日の天候や体調などを考えて、おしゃれに着こなしているようです。⑤を含む授業改革については、新しい時代にマッチした授業の取組に移行しています。まずは教員の意識改革を促すため、昨年度から講師を招聘して研修を行っていただきました。今年度は県教育委員会の協力を得て、授業研究を進めています。また、本校だけではなく、伊賀地域全体が教育先進地域となることを目指して、他校にも開放して取り組んでいます。この教育については、大学入試への影響も考慮に入れて徐々に進めています。

ここで、「学際」の名称について、再度ご紹介させていただきます。すでに大学等では新しい教育の流れとして多くが取り入れている考え方であり、高校でも「普通科改革」の柱として進められ、今年度までに全国十数校で学科が設置されました。「学際」とは文

員の皆様のご意見により、残念ですが昨年度の総会時にその活動が令和6年度をもって停止されるとの報告がなされました。一方で、関西地域に住まわれている皆さんと共に新しい支部を立ち上げようという声が上がってきています。今後の活動に期待し、本部としてもバックアップしていきたいと考えています。

会長就任にあたり、改めて同窓会の活動とは何かを考えました。会則には「会員相互の連絡を密にして、親睦友誼を温め母校との関係を深める」とあります。私としては同窓会の活動は「同窓会員に貢献すること」「母校に貢献すること」と読み替えていきたいと考えています。皆様方と同窓会の情報をお伝えする手段も多様化してまいりましたし、予算の関係も決して十分ではありません。何が出来るか皆様方からの様々なご意見を参考にしつつ、考えながら走っていきたくと思っていますので、ご協力を頂くことをお願いして挨拶に替えさせていただきます。

理融合・教科横断などと言われることも多いです。進学校では2年次から文系・理系に生徒を分けて授業を進めることが一般的に行われてきましたが、これは大学入試を目的に効率よく授業を進めるシステムでした。しかし、実際の社会では、文系だから・理系だからというのは無意味であり、良い意味で使われていません。また、研究等の現場でも、偏った考え方からは良いアイデアは生まれまいと言われています。そこで、本校では2年次までは、文系・理系に関わらず共通の教育課程で学習するとともに、学際系の探究活動の取り組みを重視しています。そして、この考え方は学際探究科のみならず、すべての生徒に必要であると考え、理科科においても2年次までは共通の教育課程としました。郷土が生んだ俳聖芭蕉の「不易流行」の精神を踏まえ、新しい考え方を確実に取り入れ、次代のリーダーとなる人材を育てることで、新たな上野高校の伝統を創っていきます。今後とも卒業生の皆様からの御指導・御鞭撻をお願いいたします。最後になりましたが、同窓会会員の皆様の益々の御健勝・御活躍をお祈り申し上げます。

各回のつどいから

高22回

6年ぶりの2年5組同窓会を9月6日、サンビシア伊賀グリンテラスで開きました。



参加者は16名で初めに記念撮影を行い幹事挨拶・乾杯の後開宴しました。健康状態や趣味、今後の目標などのスピーチが始まると久しぶりで懐かしく会話が弾みました。約2時間の楽しいひとときはあっという間に過ぎました。

高24回

古希を記念して秋晴れの令和6年10月13日、伊賀市のホテルにおいて約5年ぶりとなる同窓会を開催しました。

今回は70歳の古希を迎えた(迎える)記念でもあり、99名(男性49名、女性50名)が出席し、恩師の其道慶治先生、村井千鶴先生にもご臨席をいただきました。まず宮田登君が全員の集合写真を撮影。(会の終わりに出来上がった写真を渡しました)32名の物故者への黙禱に続き、11月4日の上野高校同窓会総会において古川タクさん(高11回)の在伊賀マナージャーを自ら任じて撮影の報告や作品展に結びつけた。更に遡って、思い出断片一つ。1992年6月に当時の上野産業会館ホールで「わが人生の旅路」と題したマリコ・テラサキ・ミラー女史の講演会が開かれた。日米開戦時にワシントンの大使館員だった父とアメリカ人の母との間に生まれたマリコさんは日米開戦と終戦に運命を翻弄された人でNHKのドラマ「マリコ」でも知られていた。

追悼 池澤素直君

伊賀の方言に「さしこやき」というのがある。ご存じのように「お節介な人」をさす。マイナスのイメージが多いかも知れないが、愛すべき「さしこやき」もいる。その典型が誰からも「もっちゃん」と呼ばれた池澤素直(通称基善)君(高19回)だ。本業は印刷業で、業界が厳しい環境になってから社長職を継いで苦労が多かった。しかし、本業以外に様々な役を引き受けた。若い頃には異業種交流の勉強会「Beの会」を立ち上げ、後年には伊賀上野観光協会、伊賀法人会、伊賀文化産業協会、伊賀鉄道友の会などの役を引き受け上野高校同窓会では副会長の一人だった。その彼が忽然と旅立ってしまった。私のような後期高齢者世代から二十代の若者まで数十人が集う「花見句会」「月見句会」という催しが長く続けられており、毎回新しい顔ぶれが加わった。その招集は全て彼一人の仕事だった。多彩な人材の点と点を線に結び、さらに面に広げていった功績は余人を以て代えがたい技だった。NHKで大河ドラマ「独眼竜政宗」など多くの作品を演出した故吉村芳之さん(高16回)やイラストレーターの

う間に過ぎ元氣な再会を合言葉に閉宴しました。終了後は参加者から労いと感謝のメールが届きました。2年後(2026年)にまた元氣に集まろうと考えています。(2024年9月7日 幹事一同)

これは、米国駐在中にマリコさんと親交のあった東京の北出明さん(高13回)が、彼女の来日中に上野高校で講演会を開きたい、と私に打診されたのが始まりだった。体育館が建て替え工事中なので一般公開の講演会にしようとして上野同窓生が多かった「Beの会」に持ちかけ協力が得られた。池澤君に引張られるように私もスポンサーに頼めそうな企業を訪ねた。地方の小都市で英語の講演会を聞くのは無謀では、とも思ったがみごと杞憂に終わった。伊賀地区のALITのメンバーの協力もあって、県外からの参加者も多く、約600の座席から外へあふれて補助イスを出し切っても立ち見が多かった。同窓の発案を同窓の



出演する同級生の俳優山路和弘君の近況報告もありました。合唱部が中心となり校歌を斉唱した後、石原和夫君の次回の再会を約束する締めでお開きとなりました。(幹事Y)



講演を控えて市長に表敬訪問のマリコさん
右からマリコさん、北出さん、池澤さん、福田合掌 (高18回 福田和幸)

母校の現況

2025 Revolution 上野高校!

表題は、2025年度の上野高校学校案内のタイトルである。今年度の新入学生(79期生)から、理科数が2クラスとなり、普通科が改称して「学際探究科」4クラス、そして70年続いた制服がス

三重県初の普通科新学科 「学際探究科」

「学際探究科」の設置は県内初で、その目的として、学校案内に次のように書かれている。①目まぐるしく変化していく現代社会を生き抜いていくためには、「変化に柔軟に対応できる力」や「新しい価値を生み出す力」が必要となること。

東京大学物性物理研究所を訪問して

令和6年11月6日(水)に上野高校理科数科1年生6名が、東京大学物性物理研究所にある山下稔准教授(高47回)の研究室を訪問させていただきました。

実現する力」を養っていく。これまでは普通科のキャリアラムに加え、課外で「みらい探究」という探究活動をしてきたが、探究専門の科目を「UQ (UnoQuest)」という名称で、一週間に1コマ加えた。UQでは、探究活動の仕方、データサイエンス、討論等の事前学習を行い、UQ授業以外の時間を使ったフィールドワークで探究活動をするというもの。課外の「みらい探究」の中に嵌めこんでいた学習と活動を切り離し、より学びを深め追究していくのが狙いだ。UQの授業内容はゼロから作り上げていく。



東京大学物性物理研究所を訪問した様子

スーツ型制服へ

もう一つ大きなRevolutionが制服の改定だ。ジェンダーフリーの観点から男性用女性用といった括りを無くし、スカート、スラックス、リボン、ネクタイと選択できる環境を整えた。

夏服、冬服ではスカート、スラックスの色目も違う。印象も変わる。ベストなど、白、紺、グレーと3色あり、カーディガン、セーター(共にグレーのみ)を合わせた一体何パターンあるのだろう。何を購入するの自由だそう。

授業のあり方も、従来のやり方から生徒に主体的・能動的に考えさせるやり方へと工夫し組み立てていく必要がある。一日の時間配分を細かくしたのも「上高Revolution」の一環で、授業のあり方を変える狙いがあったことだ。けれども言うは易しで、各教科とも暗中模索、試行錯誤の状態だという。

国立南科国際実験高級中学の来校

令和7年4月22日、23日に台湾の国立南科国際実験高級中学の生徒17名が上野高校に来校し、在校生と異文化交流を行った。南科実中とは3年前から交流をしており、来校しての交流は今回が初めてである。

手づくりファームにて交流を深めた。企画立案から実行まで生徒が中心となつて行い、当初は文化や言語の違いに戸惑う場面もあったが、交流を通し仲が深まっていった。2日間の交流を終えて在校生からは、「もっと交流を深めることができるようにするために、英語を勉強したい。」などといった感想があり、交流の最後には涙する生徒もいた。



国立南科国際実験高級中学の来校の様子

部活動報告

- 陸上競技部
R6年度
第67回東海陸上競技選手権大会
男子5000m W(ウオーク)
女子1000m H(ハードル)
第27回東海高等学校陸上競技選手権大会
男子5000m 競歩
第72回東海高等学校総合体育大会
陸上競技 男子5000m W(ウオーク)
男子3000m SC(障害)
第77回中部日本卓球選手権
出場 2年 松永 遥人(ジュニアシングルス)
2年 山口 来成(ジュニアシングルス)
2年 小澤 咲月(ジュニアシングルス)
2年 小林 由奈(ジュニアシングルス)
1年 長谷川 心絆羽(ジュニアシングルス)
第54回後藤杯卓球選手権大会
出場 2年 松永 遥人(ジュニアシングルス)
2年 小林 由奈(ジュニアシングルス)
1年 長谷川 心絆羽(ダブルス)
第52回全国高等学校選抜卓球大会東海選考会
兼令和6年度東海高等学校新人卓球大会
女子学校対抗の部
出場

プロジェクトを寄贈 元図書部員の親睦会

私の書棚に「圖書月報」という自家製本の綴りがある。発行所は上野高校図書館。その創刊は昭和25年6月でガリ版刷り。寄稿者の中には三谷健次、中田祝夫、増田四郎、猪木正道氏といった、上野中学出身の著名な学者たちが並んでいる。今は「上高図書館報」と改称し紙齢160号を数えたという。実は、その綴りの最後に「オール図書部員名簿」(昭和35年4月現在)が付いている。北高卒の井上裕雄さんを筆頭に上高14回卒までの165名の名前が載っている。名簿の作成者は、県下の高校図書館司書の第一号であった渡辺(のち福森)紀子さん。私も高校生活の三年間を図書部員として在籍したひとりである。当時、夏休みには先輩部員も一緒になって、赤目滝、曾爾高原、石水峽などでキャンプをし、卒業後は親睦旅行を重ねていた。その会計を「上高図書部員全員集



寄贈したプロジェクター

合」という口座名の某銀行の通帳で管理していたのが私。しかし、その旅行も、平成25年10月に第5回卒の有志が当番で、桑名市の「なばなの里」に集まったのが最後。その後、十余年を経て、一昨年初冬には仲間の中心的存在だった福森紀子さんが亡くなられた。こうした現状に鑑みて、有志と相談して親睦会の解散を決め、会計の残余金92,802円で、青春時代を過ごした母校の図書館に「プロジェクト」1台を寄贈することにした。後輩たちが有効に使ってくれば、望外の喜びである。(高10回 北出桶夫)